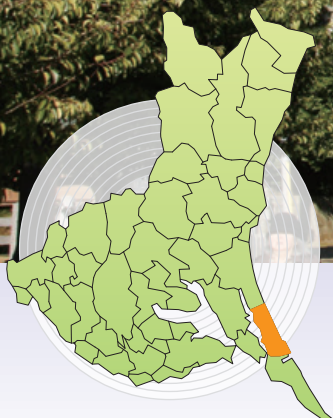


# 茨城県鹿嶋市

市民のコミュニケーションを深める地域づくり

鹿嶋神宮（大鳥居）

写真提供：鹿嶋市



茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第21回は、鹿嶋市です。筑波銀行は、平成26年12月に鹿嶋支店を新築移転して利便性向上を図り、鹿嶋市の皆様と密接な関係を築いています。鹿嶋支店長の助川喜昭が、鹿嶋市長 錦織孝一氏、企画部次長兼港湾振興室長兼政策担当参事 栗林裕氏にお話をうかがいました。

## ●鹿嶋市が一番と考えていること、自慢できることはなんですか。

鹿嶋市は、常陸国一ノ宮である鹿嶋神宮とともに、2千有余年の歴史を刻んできたまちです。北浦の湖上にそびえる朱塗りの一の鳥居は、水上に立つ鳥居としては日本最大級です。神宮前の石造りの大鳥居は東日本大震災で被災しましたが、白木の大鳥居として昨年再建され、多くの方が見物に訪れています。また、近年はパワースポットとして若い年代の方々も増えてきており、今後も、地域の心の支えとして、大切にしていかなければならないものです。

自然に目を向けると、東は四季を通じて首都圏からサーファーが集う鹿嶋灘、西は水鳥がさえずり、夕日が映える北浦に挟まれた地形で、とりわけ、雄大な鹿嶋灘の海岸線は市が誇る貴重な財産です。この鹿嶋灘で採れる鹿嶋灘ハマグリやヒラメ、鹿嶋だこ、シラスなどの水産物や、海水をかけて育てる<sup>しおさい</sup>汐菜キャベツはとても美味しく、自信をもって皆様にお勧めできます。

施策面では、平成27年4月から、18歳以下の子ど

もを養育する方を対象に、就学前の第3子以降の子どもに「子宝手当」と称し、中学校卒業まで月2万円を支給することとしました。また、医療費助成の対象年齢を15歳（中学3年生）から18歳までに延長し、併せて所得制限を撤廃するなど、若い世代が住みよい、子育てしやすいまちを目指して取り組んでいます。

## ●今後の展望について教えてください。

鹿嶋市は、歴史や自然、文化、産業、そして人材等、魅力のある資源（潜在力）が豊富です。

これらをいかに活かしていくかが市の活性化の鍵と考え、私は昨年4月の市長就任時に「教育力」・「福祉力」・「市民力」・「地域活力」・「未来創造力」の『5つの鹿嶋力』を市政運営の基本的な柱として掲げ、鹿嶋市の発展と市民の幸せの推進に向けて取り組んでいます。

自治体を取り巻く環境は年々厳しくなっていますが、中でも少子高齢化は切実な問題です。当市も例外ではなく、高齢化率は27%を超え、4人に1人は65歳以上という状況です。団塊の世代が後期高齢者の仲間入りをする2025年問題への対応は、喫緊の課題と捉えています。

少子化対策は、前述のような子育て世代への支援や教育環境の整備を図り、産み・育てやすいまちづくりを推進し、併せてその前段階の若者の未婚・晩婚化対策、若者の雇用・就労対策も切実な事案だと考えています。当市では、平成27年度の組織機構の見直しの中で少子化対策室を設置し、子育て支援に加えて、結婚支援などにも取り組んでいきます。



グラウンドゴルフ大会 写真提供：鹿嶋市



錦織市長



栗林次長

結婚支援は、近隣自治体や市内の企業とも連携して進めます。

一方の高齢化対策は、市民の皆様が健康

で過ごせる健康寿命の延伸を目的とした諸施策を検討しています。まずは、小中学校のプールの老朽化が進んでいることから、それに代わるものとして複数の温水プールを整備し、学校体育での利用に加え、空き時間には一般に開放し、市民の健康



助川支店長

づくりの場としたいと考えています。また、愛好者が増えているグラウンドゴルフは、大会ができるコースの要望も多く、順次、整備を予定しています。

その他にも、健康で楽しい時間を過ごしていただくため、地域のたまり場となり得る地区まちづくりセンター（公民館）の整備・充実を図ります。ここでは、趣味の活動を楽しむことはもちろん、井戸端会議をするだけでも十分に役割を果たします。また、児童館の役割も担うことで、子どもたちからお年寄りまで、幅広い年代の交流が展開されます。

全国的にコミュニティ意識の希薄化が問題視されており、当市においても、自治会・区への加入率が低下してきています。しかし、各地区において主体的な活動が展開されることにより、地域の連帯意識はさらに強くなっていきます。地域の方々がコミュニケーションを深め、地域の絆が太くなるような支援を行います。

全101カ所の自治体・区を順次訪問し、市民の皆様の率直な意見を直接聞く「車座懇談会」を行っています。寄せられた意見は聞きっぱなしにしないで担当部署に必ず通しています。また、市民の皆様には積極的に自分の自治体・区の活動に参加することをお願いしたいです。

地域の活性化も重要な問題です。当市には、鹿島神宮やカシマサッカースタジアム、海水浴場など他に誇れる観光資源が多くありますが、その有機的連携が課題となっています。打開策として、市中心地である鹿島神宮の周辺に、鹿嶋の歴史や文化などを市内外に情報発信し、かつ市民と観光客の交流拠点となる歴史資料館を整備する構想を進めています。規格に合った野球場や陸上競技場なども整備し、2020年東京オリンピックでの合宿地の招致活動に手を挙げることも視野に入れていきます。

外国人観光客の足をいかに当市へ向かわせるかも検討していきます。かつては台湾からのツアーは、成田空港に到着してから当市を観光した後に水戸に宿泊し、翌日大子を訪れていましたが、最近はアクセスの便利な牛久大仏と阿見町のアウトレットを観光し、東京に行く行程が主流になってしまい、再び当市に来てくれるよう働きかけなくてはなりません。

また、大規模な設備投資により、地域の賑わいづくりや雇用創出まで考えてくれている民間事業者もあります。そのような事業に対しては、アクセス向上のための道路の整備等、市としてもできる限りの支援を行います。いずれは、市内の観光資源とも連携した取組みを図ります。

鹿嶋市には鹿島港という物流拠点があります。外港地区公共埠頭が一部供用開始となりましたが、港内の静穏度の確保や後背地への企業誘致などの課題が残り、本格的な活用には至っていません。鹿島港は、高速道路とつながることで機能を十二分に発揮すると考えています。そこで、現在、潮来－鉾田間の整備が進められている東関東自動車道の鹿島港周辺への延伸に関する要望活動を引き続き展開していきます。

「地方創生」の時代となり、各自治体の知恵比べになってきていますが、鹿嶋市は各分野においてまだまだ伸び代があると思っています。引き続き、関係機関などと連携し、市民や企業と手を取り合いながら、市民の皆様が住みやすいまち、そして観光客など市外の人が行ってみたいと思うまちを目指して、活力あるまちづくりを進めます。まち・ひと・しごと創生法に基づく予算もおおむね決定し、プレミアム商品券の発行や前述の子宝手当に充当する予定です。

#### ●筑波銀行に期待することをお聞かせください。

振り込め詐欺の未然防止に取り組んでもらっています。今後も地域の高齢者を守る取組みを続けてほしいと感じています。また、地域の治安の維持にも協力してもらっていることもありがたいことです。引き続き、当市とも連携して地域のための活動を行っていただきたいと思います。



海水浴場 写真提供：鹿嶋市